

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3790500031
法人名	社会福祉法人みとし会
事業所名	楽陽荘グループホームちーず
所在地	香川県観音寺市柞田町甲1936番地 (電話)0875-25-3155

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年11月14日	評価決定日	平成20年12月8日

## 【情報提供票より】(20年11月14日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)19年12月1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	15人 常勤 12人, 非常勤 3人, 常勤換算 13.7人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り銅板ぶき造り 1階建ての1階部分
------	-------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	15,000円+実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000円		

### (4) 利用者の概要(11月14日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	10名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.6歳	最低	73歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	クニタクリニック 高田歯科クリニック
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域から要望されて開設に至ったこのグループホームは、自然光を取り入れた適度な明るさと木の温もりで、暖かい雰囲気を感じられる。管理者と職員は、1年間の目標を理念として掲げ、それぞれの持ち味を活かして非常に前向きである。利用者一人ひとりの人権や個性を尊重して、その人の生活パターンに合わせた支援を実践している。そのため、利用者が明るく落ち着いて暮らしている様子がうかがえた。母体である医療機関がすぐ近くにあり、利用者や家族などの安心した生活につながっている。これからの活躍が期待されるホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回初めての外部評価であり、今後の取り組みに期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	開設1年未満であり、管理者、職員はそれぞれの経験を通して全員で取り組み管理者がまとめた。評価を活かし今後のサービスの質向上に取り組みたいとの姿勢がうかがえる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3月に第1回の会議が開催されて、事業所から現状報告をして意見交換をしている。初回であり、グループホームを理解していただき、事業所の避難場所について確認した。事業所がさらに発展していくよう2カ月に一度の定例会議として開催し、活発な意見交換ができ、運営に反映する取り組みに期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の来訪時には、笑顔で接して、意見や苦情、不安に思っていることを話しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見や苦情、不安に思っていることは、全職員が共有して運営に反映している。今後は、意見箱の設置や家族会を設けるなど、家族などが意見や苦情、希望などをさらに出しやすいような取り組みが望まれる。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や買い物などに出かけた時は、近所の方々と挨拶を交わしたり、季節の野菜などをいただく。地域の文化祭に作品を出展して見学に行くことも予定している。秋祭りには太鼓台や獅子舞が来てくれるなど地域との交流も徐々に深まりつつある。これからは、運営推進会議を活かして、ボランティアなどの受け入れや、地域との馴染みの関係をより深めていくことを期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1年間の目標として、職員全員で事業所独自の理念をつくりあげている。「いつも笑顔で仲良く生活しています。お一人おひとりの自立をお手伝いします。」	○	住み慣れた地域での生活を支えて理念を付け加えていくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝礼で確認しあい、日々の言葉かけや記録など、声をかけあって理念を反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物など外出時には、出会った方々と挨拶を交わしたり、地域の文化祭には、編み物やパッチワークなど作品を出展して見学に行く予定を立てるなど、地域との交流に努めている。ボランティアの訪問がある時は、隣接された特養まで出かける。	○	事業所へ地域の人々やボランティアなどの訪問を受けて、事業所を理解してもらうなど、地域との関わりを深めていく取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての評価であり、評価の意義や目的について運営者、管理者、職員は話し合いを行い、自己評価は全員で分担をして取り組み管理者がまとめた。	○	自己評価および外部評価を運営推進会議で活かして、サービスの質向上に向けた今後の取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月に第1回の運営推進会議を開催して、事業所の現状報告をして意見交換をしている。初回であり、グループホームを理解していただき、事業所の避難場所についても確認している。11月、1月、に開催を予定している。	○	2か月に一度の定例会議を開催して、事業所の現状報告や今後取り組みたいことなどを話し合ったり、参加者から意見や情報をももらうなど、双方向的な会議をしていただきたい。そこでの内容をサービスの質向上に活かす取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口には、開設前後からいろいろ相談に行き、助言や励ましをいただいたり、市側からも情報をいただいたりして、市とともにサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族などの来訪時には、必ず声をかけて利用者の日ごろの暮らしぶりや健康状態を細かく報告をしている。季節ごとにホーム便りを送っているが今後は徐々に増やしていきたい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などの来訪時には、笑顔で挨拶をして日ごろから人間関係をよくするように努め、話しやすい雰囲気づくりをしている。出された意見、不満、苦情などについては、職員は、共有して運営に反映させている。	○	家族会などを設けて、家族同士で意見を出し合い、意見や苦情などを代表者に伝えてもらえるような機会づくりを、することを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、基本的にユニット間の異動は行わず、馴染みの職員による継続的な支援を実践している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の段階に応じて外部研修に参加する機会を確保している。参加者は、必ず報告書を提出して全職員が閲覧している。また、内部では、管理者と各委員会で関わっている職員が研修計画を立てて、全職員が働きながらトレーニングしていくことを実践している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2月に市の提案で市内4事業所の管理者が集まり情報交換を行い、その後、電話で意見交換が行われるようになった。また、管理者研修で他の事業所と相互訪問をしたスタッフもいる。	○	グループホーム協議会に加入して、セミナーや他の事業所の見学、情報交換、相互研修会などで事業者同士協働しながらサービスの質向上に努めていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初に利用者と家族に見学して貰ったり、職員が自宅や特養を訪問して顔馴染みになり、安心して利用していただけるよう努めている。入居後も状況により家族などの訪問を多くして貰っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、調理、掃除、洗濯物たたみなど利用者の得意とする分野で力を発揮してもらえよう、一緒に行いながら感謝や労いの言葉をかけている。また、職員が利用者から励まして貰う場面もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけて、言葉や表情から思いや意向を汲み取る努力をしている。また、家族などから些細な情報も得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本的に本人や家族などの参加を得て、意向や希望、要望を聞いて職員全員参加で意見交換を行い、気づきやアイデアを活かした個別の具体的な計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一回の評価と3か月ごとの見直しを行っているが、利用者の状態の変化や家族などの要望があれば迅速に対応できるよう新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族などの状況に応じて、通院や特別な外出支援を行うなど、柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の他、利用者や家族などの希望するかかりつけ医となっている。事業所は家族などや医療機関とは密に連絡を取り合い、受診結果の情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、本人や家族などと医師を交えて話し合いを行っている。状態の変化がある度に、家族などの気持ちの変化に対応している。	○	できるだけ早い段階から本人、家族、かかりつけ医などと話し合い、方針の統一を図り、関係者全員が共有できるよう文章化されておくことが望ましい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で、プライバシーや気分を損ねるような言葉かけや対応はしていない。「身体拘束ゼロ推進委員会」を中心に常に職員同士が気をつけ合っている。記録などの取り扱いも徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはもっているが、利用者一人ひとりが多くの時間を自分のペースで過ごしており、職員は見守りながら支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなどができる利用者は、職員と話をしながら一緒に行っている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで午後のおやつ作りの話をしながら楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝風呂、夜間入浴など、利用者の希望する時間帯に入浴できるよう取り組んでいる。入浴を拒む利用者には、時間をおいたり、職員が代わって声をかけるなど、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の生活歴や趣味を把握して共有しており、得意とする分野で力を発揮して貰えるよう、一人ひとりに役割をもっていただき、感謝の言葉を伝えて張り合いや気晴らしの支援に心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気のよい日は、利用者の方から散歩の誘いがある。利用者の希望する散歩コースや買い物をするなど、日常的に外出支援を行い、季節の移ろいを感じてもらっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者および職員は、鍵をかけることのデメリットを認識しており、日中は玄関の鍵はかけず職員の見守りを徹底させている。利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけて一緒に歩くなど安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成して、防災訓練を年2回行い消防署の指導や協力を受けている。避難経路についても利用者と一緒に確認しているが、地域住民との協力体制についてはこれからである。	○	運営推進会議を活かし、日ごろから地域住民や消防署、警察署などと連携を図りながら協力体制を築いていく取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況については、職員は記録をして情報を共有し、その方に合わせた支援を行っている。また、時々、医療機関の管理栄養士に栄養のバランスや摂取カロリーのチェックをしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、自然光を取り入れ適度に明るく、季節の花を生けたり、飾り付けなどで居心地の良さが醸し出されている。また、食器を洗う音、調理をする音、静かな音楽が流れるなど、五感の刺激が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、備え付けの和ダンスとベッド以外は本人の使い慣れた好みものを持ってきて自分流に配置をしたり、季節の花を生けるなど、居心地よく過ごせる工夫をしている。		